



アルミつぼみ出しのパフフィニッシュディスク+パフアルマイトリムに、金ピアスがキラリ☆なるほど、赤とアルミ色だけでシンプルすぎる240SXに金ピアスが加わると、ゴージャス感が増し増しに! こういう遊びが出来るから3ピースはやめらんねー!

WORK MEISTER S1 3PIECE

- サイズ: 17×7.0J~13.0Jノーマルリム
- H数&P.C.D.: 4H-100、5H-114.3
特殊P.C.D.設定あり
- カラー: ホワイト、シルバー、ブラック、チタンゴールド、パフフィニッシュ(セミオーダーカラー受け付けあり)。リムはバルアルマイトが標準
- 付属品: エアバルブ1個、ディスクステッカー1枚、リムステッカー1枚
- 価格: 7万5900~10万5600円(税込)



こう見えてデザインが凝りまくっているのがマイスターS1の特徴の1つ。過去作でもインチの違いに合わせて窓の開口部の水かきの傾斜の角度だとか、断面だとかにケタ違いの努力を使っていたが、17インチ3ピースでもその伝統は健在。ノーマルリムやピアスポルトとのバランスを考え抜いた最適のスポーク長、幅、厚みを割り出してきた。

180SX 顔のシルビア、通称ワンビアを探していたところ、偶然左ハンドルの240SXと出会い即お買い上げ! R32 純正のレッドパールで塗り直したボディ、前期CA用リップを組んだフロントアンダーなど、ちょいちょい手がかかってまふ〜。



ファイナルコネクションの車高調、ナギサオートのアーム、前後メンバーの上げ加工、ニスモ強化マウントを総動員して、60mm腹下アップ作戦を実施。だからこんだけ低いナマ足でも、ストリートで快走できるのさ!



ヴィランテのステアリングは、メジャーでないレアさから選んだのだそう。モモのシフトノブを右手で操る、左ハンドルならではの快感にドブッリ浸れ!



痛車にもドリフトにもUSDMMにも興味があるという、オーナーのたいがサン。どのジャンルから攻めても、マイスターS1 3ピースならバツバツでバズるアイテムなのだ。



栄光の装着第1号車は、17×9.5J-9を4本通しでイン。8/9度のキャンバー角を付けて強引にフェンダー内に封じ込めた。なお、撮影に協力していただいた埼玉・ロブラリアでは、3ピース17インチピアス発売を記念した一大キャンペーンを展開中。大手量販店にも負けない価格設定が自慢らしいので、欲しかったらアクセスするべき!

2022年11月。世間の話題は2つのネタで持ちきりだ。そう、サッカーワールドカップの開催とマイスターS1 3ピースに17インチが出たことだ!

ベイスカーの国籍、価格どころか新旧までも問わず。改造のジャンルどころか量までも問わず。つまり、だれのどんなクルマに履かせても、平均点以上のパフォーマンスとルックスを約束する。そんな魔法を使えるホイールがマイスターS1だ。だが、その3ピースモデルは18&19インチのみ。17インチ以下は2ピースに甘んじるよりほかなかった。それがついに3ピース解禁となれば、これは浮かれずにはいられない。

従来の2ピースと新たな3ピース。1番の違いは、ピアスポルトに尽きる。ホイールをディスク面とインナーリム、アウトリムの3つに分割。それらをつなぎ、最適なインセット&アウトセットを実現する役目ばかりか、アクセントとしても一級のキレ味を見せつけるとなれば、もう3ピースを選ばない選択肢など存在しない。ちなみに、ワークが用意したピアスポルトはチタンコーティング、ゴールド、ブラック、標準の4種類。5色用意されたディスクカラーとパフアルマイトリム、そして愛車とのカラーリングをどうコーディネートしていくかを考えるだけで、もうワークとドキドキが止まらない。

装着1号車となったS13とのマッチングは、ご覧のとおり文句なし。さあ、今すぐ3ピース17インチを履いて、バズれどやれ!!

RIM LATEST INFO.

ワークの大看板商品“マイスターS1 3ピース”に、この11月より17インチが追加された。装着車両の幅をグッと増やす17インチ3ピースの登場は、2022~2023シーズンのスタンス戦線に嵐を巻き起こすに違いないっ!

source: ワーク 06-6746-2859 / 048-688-7555 / 052-777-4512
https://www.work-wheels.co.jp
spl thanx: Car Life Support LOBULARIA @wiseman_violet
photo: Akio Hirano

WORK MEISTER S1 3PIECE 17INCH

[ワーク マイスター・エスワン・スリーピース 17インチ]



- OWNER: TAIGA ● BASECAR: 1990 NISSAN 240SX
- EXTERIOR: RED PEARL ALL PAINT FOR R32、GENUINE FRONT LIP SPOILER FOR CA、WASHER NOZZLE DELETE
- WHEELS: WORK MEISTER S1 3P (F&R=17×9.5J-9)
- TIRES: HIFLY (F&R=205/40-17)
- SUSPENSIONS: FINAL KONNEXION ADJUSTABLE COILOVER、NAGISA AUTO ARM、NISMO HEAVY DUTY MOUNT、F&R MEMBER 30mm RISED
- INTERIOR: VILANTE WOOD STEERING、MOMO SHIFT KNOB

17インチ3ピースでドヤれ!

WORK WHEELS JACK

オンリー・ワークホイールのイベント!

PHOTO>>>HIROYUKI URANO
REPORT>>>AKIRA OKAMOTO

ワークをマウントしたマシン限定のイベントが、9月23日、大阪・舞洲スポーツアイランドで開催された。あいにくの大雨。強風と横殴りの雨のなか、各地よりツワモノたちが大集結した。さまざまなスタイルが集まるなか、目についたのが、マイスター、エモーションをセレクトし、ガッツリとロワードしたスタンスマシンたち。車高の低さを競いながら、オリジナリティあふれるスタイリングに仕立てていた。強烈な雨風のなかだったけど、ステージではいろんな催しものが開催されていた。エントリーカーを囲むように並んだブースには、最新パーツやデモカーがズラリ。多くのホイールを展示していたワークのブースには、最新モデルを見ようと多くの来場者が訪れていた。次回は、ぜひとも晴天での開催を期待したい!



TOYOTA CAROLLA SPORT



ボディのカラーリングとコーディネートしたブロンズアルミアイトリムのグランシーカー CCX (19×9J/10J) をナチュラルキャンパーで取り込んだ西サン。たたき出したリアフェンダーによるナチュラルなワイド感が純正っぽくてイイ。

MITSUBISHI LANCER EVOLUTION VII



置きも走りも両立する見た目とスペックにこだわった新野サンのランエボVII。現代のワイスピをテーマに、ボルテックス・サーキットver.をおごり、エモーションZR10 2P (18×12J) をインストール。2.2ℓ化したパワーユニットのポテンシャルはいかに!



TOYOTA 86



バンデムのボディキットに、バトルエアロのスワンネックにより、スポーティに仕上げた奥原サンの86。エモーションCR 2P (18×10.5J/12J) を寝かせず、トラックスタイルを際立たせていた。エンジンは世界10機限定の2.2ℓ仕様。HKSタービンにより400馬力を発生する。



NISSAN FAIRLADY Z

できるだけDIYで仕上げたという上波/Z32。純正スタイルでワイド&ローを追求したという。MTミッションへ載せ替えに加え、エンジンチューンも敢行。BCR車高調+326スプリングで、ランベックLM1 (18×12J/12.5J) をマウントしていた。



NISSAN FAIRLADY Z

ホワイトボディにクリームのディープリム&インテリアが目をつけた相澤サンのZ33ロードスター。イングスのボディキットをまとい、群馬のバストラが製作した30mmワイドフェンダーに合わせ、マイスター S1 (19×9.5J-32/11.5J-58) をマッキングしていた。



BMW Z4

326パワー車高調に、メーガン&ワンオフアームにより、激低車高に仕立てた垣内サンのZ4。18×10.5J-19の前後通しにしたマイスター M1を、F11度/R12.5度でネジ込んでいた。今後はさらなるネガキャンを検討中なんだとか。



MAZDA RX-8



ニュージーランドのドリフター、マッド・マイクが乗るRX-8を、ほぼ完璧に再現したという安原サンの1台。後期へとスワップしたフェイスに、インナーブラック化したヘッドライト、ナンバー隠しなど、マッド・マイク仕様を完全再現していた。ロケットバーニーのワイドフェンダーに対し、VS-XV (19×10.5J/13.0J) をバツバツにマウントしていた。



MAZDA ATENZA WAGON

スッキリしたシンプル&クリーンなスタイリングに、イデアルのエアサスによるスラムドゥリが美しかった藤本サンのアテンザワゴン。ジーストST3 (19×9.5J) 越しのイデアルのブレーキシステムに広島・ワブスが手がけたトランクオーディオと見どころ満載。